

アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究 —「小さな自然再生」の普及促進—

Study on Building and Utilizing Network for the River Restoration in Asia -Promotion Collaborative Nature Restoration-

水循環・まちづくりグループ 研究員 後藤 勝洋
技術参与 土屋 信行
河川・海岸グループ 研究員 内藤 太輔
河川・海岸グループ 研究員 阿部 充

1. はじめに

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、2006年11月の設立以降、河川・流域再生に関する情報を交換・共有することを通じ、会員間のコミュニティーを拡げながら、各地域に相応しい河川・流域再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として種々の活動を展開している。また、国際的な河川再生に関する知識・技術情報の交換と人材交流を目的に設立された「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口を担い、中国・韓国等のアジア各国との協働・連携を進めている。

本稿では、当研究所と(株)建設技術研究所国土文化研究所が共同で運営するJRRN事務局の2016年度の活動概要を報告する。

2. 2016年度のJRRN活動内容

2-1 2016年度の活動概要

2016年度にJRRNが取り組んだ主な活動概要を表1に示す。特に重点的に取り組んだ活動として、“「水辺の小さな自然再生」現地研修会による川づくり人材育成”が挙げられ、以下にその概要を報告する。

2-2 「水辺の小さな自然再生」現地研修会による川づくり人材育成

本活動では、近年各地で広がりつつある、地域住民が行政と連携し、手作りを中心に取り組まれている「小さな自然再生」の普及促進に向けて、人材育成と技術向上を図るため、2014年度に作成した「水辺の小さな自然再生事例集」を教材として活用し、各地域に相応しい取り組みの推進を支援する現地研修会を、「小さな自然再生」研究会の協力のもと開催するもので、2016年度は、上西郷川(福岡県福津市)、武庫川(兵庫県西宮市)、神崎川(千葉県白井市)の3河川で実施した(表-2)。

なお、本活動は、(公財)河川財団の河川基金の助成を受け実施したものである。

表-1 2016年度の主な活動概要

| テーマ | 活動概要 |
|------------------------|--|
| 河川再生に関わる情報共有基盤整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・JRRN ニュースレター発行 ・JRRN ニュースメール発行 ・JRRN/ARRN ウェブサイト運営 ・JRRN-facebook 運営 ・「小さな自然再生」ホームページ制作・運営(河川整備基金助成事業) |
| 河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・「桜のある水辺風景2016」写真募集 ・「第13回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」開催(韓国・仁川) ・「小さな自然再生」現場研修会開催(河川整備基金助成事業) ・応用生態工学会 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う!V」開催(東京) |
| 河川再生に関わる調査研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・「水辺の小さな自然再生」現地研修会による川づくり人材育成(河川整備基金助成事業) |
| 河川再生に関する冊子等の発行 | <ul style="list-style-type: none"> ・「桜のある水辺風景2016写真集」発行 ・「小さな自然再生現地研修会 開催報告」発行 ・「自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う!V」講演録」発行 ・「水辺の小さな自然再生 あなたはじめてみませんか? リーフレット」発行 |
| 河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働 | <p>【国内活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の巡回展運営協力 ・遠賀堀川再生プロジェクト企画運営協力 ・東彼杵町水辺からのまちおこし企画運営協力 ・「多自然川づくり現地研修会」を通じた河川系職員研修支援(東北地方自治体) ・海外視察団受け入れ支援 <p>【海外活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第11回ARRN運営会議」企画調整・運営協力 |

(1) 上西郷川現地研修会(第3回現地研修会)

上西郷川現地研修会(2016年7月29日開催)は、上西郷川での活動団体である上西郷川日本一の郷川をめざす会(福津市、九州大学、地元住民等)の協力を得て開催したもので、座学研修と研修会では初となる現地での施工体験を実施した。上西郷川は、「小さな自然再生」の代表事例と言える河川で、九州大学がコーディネーターとなって市民連携による川づくりが積極的に行われており、研修会では12名の地元の小学生を含む参加者が川に入り、生物の生息場を創出するにはどの場所に間伐材水制を設置すれば効果的かを考えながら、一緒になって現場作業に汗を流した(写真-1)。

(2) 武庫川現地研修会 (第4回現地研修会)

武庫川現場研修会 (2016年10月28日開催) は、武庫川の管理者である兵庫県武庫川総合治水室の協力を得て開催したもので、「魚類の生息・遡上環境の改善」を検討課題として、2箇所の現地の状況 (写真-2) を踏まえ、①ウナギの生息に適した石組みの設置位置、②落差工対策として効果的な魚道の提案を行った。研修会のフォローアップとして、兵庫県が主催する武庫川づくり交流会にて、研修会での意見も参考にしたウナギの石組みの試験設置が行われた。

(3) 神崎川現地研修会 (第5回現地研修会)

神崎川現地研修会 (2016年12月8日開催) は、神崎川上流部の管理者である白井市と、地元活動団体の神崎川を守るしろい八幡溜の会の協力を得て開催したもので、「西白井・神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？」を検討課題として、川 (水路) と調整池、溜池等 (写真-3) の魅力・価値を引き出して、緑のネットワークづくりの視点から地域でできることについてアイデアを出し合った。本研修会は、既往の研修会の参加者より要望をいただいたことがきっかけで開催したものであり、当分野の活動のネットワークが着実に広がりつつある。

3. おわりに

本活動を継続的に続けてきた結果、河川財団より「平成28年度河川基金優秀成果表彰」をいただくなど、対外的に認知・評価されるようになってきた。本活動へ



写真-1 上西郷川現地研修会 (水制の施工体験)



写真-2 武庫川現地研修会 (現地踏査)



写真-3 神崎川現地研修会 (現地踏査)

の全面的な協力・指導をいただいている「小さな自然再生」研究会のメンバーに感謝を申し上げる。

表-2 2016年度「小さな自然再生」現地研修会

| | 第3回現地研修会 | 第4回現地研修会 | 第5回現地研修会 |
|-------|--|--|--|
| 開催場所 | 福岡県福津市・上西郷川 | 兵庫県西宮市・武庫川 | 千葉県白井市・神崎川 |
| 開催日 | 2016年7月29日 (金) | 2016年10月28日 (金) | 2016年12月8日 (木) |
| 協力団体 | 上西郷川日本一の郷川をめざす会 (福津市、九州大学、地元住民等) | 兵庫県 | 白井市、神崎川を守るしろい八幡溜の会 |
| プログラム | <p>(午前) 座学研修</p> <p>①小さな自然再生のすすめ (三橋弘宗: 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)</p> <p>②上西郷川の取り組み紹介 (上西郷川日本一の郷川をめざす会)</p> <p>(午後) 上西郷川現地研修</p> <p>・間伐材水制の施工作業</p> | <p>(午前) 座学研修</p> <p>①小さな自然再生のすすめ (三橋弘宗: 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)</p> <p>②武庫川での取り組み紹介 (兵庫県県土整備部土木局武庫川総合治水室)</p> <p>③ウナギの生態について (揖善継: 和歌山県立自然博物館)</p> <p>④小さな自然再生の留意点 (原田守啓: 岐阜大学流域圏科学研究センター)</p> <p>(午後1) 武庫川現地踏査</p> <p>(午後2) ワークショップ</p> <p>「魚類の生息・遡上環境の改善」</p> | <p>(午前) 座学研修</p> <p>①小さな自然再生の紹介と福岡市室見川での取り組み (伊豫岡宏樹: 福岡大学工学部社会デザイン工学科)</p> <p>②神崎川上流部での取り組み (神崎川を守るしろい八幡溜の会、長谷川雅美: 東邦大学理学部生物学科)</p> <p>③印旛沼流域水循環健全化の取り組み (千葉県県土整備部河川環境課)</p> <p>④水の循環からみた都市緑地での取り組み (菊池佐智子: 公益財団法人都市緑化機構)</p> <p>⑤上西郷川における市民主体の川づくりと小さな自然再生 (林博徳: 九州大学大学院工学研究院)</p> <p>(午後1) 神崎川現地踏査</p> <p>(午後2) ワークショップ</p> <p>「西白井・神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？」</p> |
| 参加者 | 25名 (一般参加者: 19名、研究会: 6名)、小学生12名 | 50名 (一般参加者: 32名、兵庫県職員: 11名、研究会: 7名) | 57名 (一般参加者: 43名、白井市職員: 6名、研究会8名) |